

vol.46-11 (通算 524号)

2017年2月号

# やどかり

2017年2月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 土橋 敏孝  
〒337-0043  
さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円 (含会費)

## 私たちの中に生き続ける人たち

浜砂会は、1977年に発足したやどかりの里の家族会である。やどかりの里を支える役割を果たしながら、家族同士が互いの体験を共有し、学習を重ね、家族自身が回復することを大切に活動している。浜砂会はさいたま市精神障害者家族会連絡会にも所属し、つながりを大切にしながら、精神障害のある人を取り巻く制度の改善にも力を尽くしてきている。

2010年からやどかりの里の理事としても関わってきた浜砂会会長の沼田光子さんが急逝された。12月3日、ご自宅で夕食後パソコンに向かっていた時に気分が悪くなり、誤嚥が原因で命を落とされた。あまりに突然の訃報に、やどかりの里の私たちだけではなく、沼田さんと親しくしてきたさいたま市内外の人たちは茫然とし、信じられない思いだった。

沼田さんは、なかなか家から出られなかった息子さんとの日々の経験から、やどかりの里につながっていない人の親たちが孤立しないで、どこかにつながれることが大事だと考えていた。浜砂会の案内をやどかりの里のホームページに掲載し、やどかりの里のメンバーの家族でなくとも、浜砂会の会員として活動できることを広く知らせ、浜砂会の会員は徐々に増え、活発な家族会活動を展開してきた。また、やどかりブックレット家族からのメッセージ(やどかり出版)の編集委員としても関わっており、2冊の本の出版に関わり、原稿も掲載されている。

やどかりの里のできたばかりのパンフレットには沼田さんらしい笑顔の顔写真とともに、「親の願いは親亡き後のメンバーへのサポートの充

実です」とコメントを記された。障害者運動にも仲間の家族とともに関わり、学習や情報収集にも熱心であり、惜しみなく仲間と共有されてきていた。

12月14日には、エンジュで長年働いてきた黒尾克己さん(本紙5ページ参照)がグループホームで急死された。エンジュで働き、地域活動支援センターで一息つき、夜は仲間と電話で話し、いつもと変わらぬ1日を過ごし、翌朝、出勤しようとしたときに玄関で倒れ、亡くなった。

やどかりの里の創設者の谷中輝雄さん、志村澄子さん、孤嶋圭子さん、堀澄清さん……やどかりの里を支え、ともに活動してきた人たちが先に逝くことを私たちは寂しく思ったり、残念に思う。しかし、沼田さんや黒尾さん、やどかりの里の先達たちは、私たちの中に生きている。困難なことに会った時に、その人の言葉や表情がよみがえり、勇気づけられたり、大事なことを思い出し、行き詰まった状況が開けてくる。まさに亡くなった人たちは、私たちの中に生きているのである。

やどかりの里は、関わる人たちがともに活動を創り合ってきた。それぞれの持ち味を生かしながら、補い合い、さまざまな困難を乗り越えてきた。先輩たちが果たせなかったことは、次に歩む人たちがバトンを受け取り、知恵や力を出し合い、前に進めてきた。やどかりの里の今は、先に逝った人たちとの歩みの積み重ねの中にある。今を生きる私たちは、その土台を大切にしながら「当たり前生活」の実現に向けて営々と歩み続けるのである。